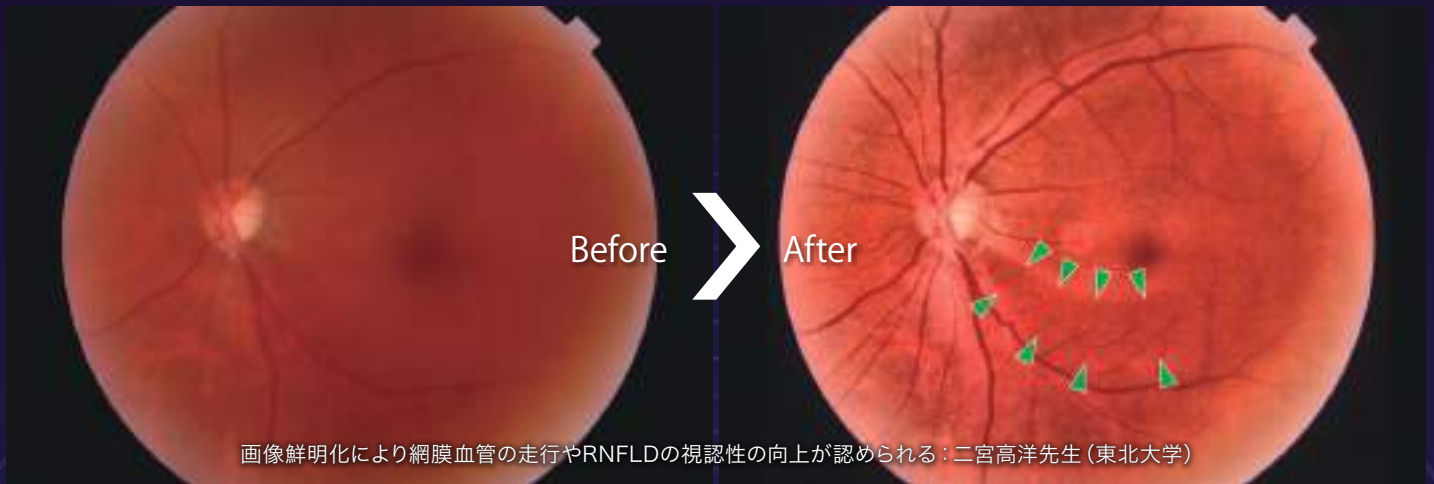


眼科用AI画像検査における 画像鮮明化アルゴリズムの可能性



座長



中澤 徹 先生 / 東北大学

演者



AI を用いた眼科検査の新たな活用
～画像鮮明化ソフトウェア Soft-MIErの有用性～

二宮 高洋 先生
東北大学



画像鮮明化アルゴリズム
「MIEr-テクノロジー」について

井上 宏一
株式会社ロジック・アンド・デザイン

近年はAIによる臨床データ解析の研究が進んでおり、AI診断・治療による医療標準化や医師不足、過疎化などに起因する医療格差解消等が期待されています。また、ディープラーニングの発展でAI医用画像解析も広く応用される様になっています。

眼科は光干渉断層計(OCT)をはじめとした機器による多種の画像を診断に用いており、同一条件にて大量のデータ取得が可能なことから、AI画像診断と親和性が高いと考えられます。一方で、機種間の差や、画像の前処理など様々な課題が明らかになってきております。

そのような中で、画像の質がAIアルゴリズムの精度に大きく影響することが分かってきました。暗い画像やハレーションを起こしている画像を、画像処理により「人にとっても分かりやすい画像」に変換することは、AI画像診断の発展に向けて重要であるばかりでなく、日常の眼科診療においても大変有用です。

本セミナーでは、このタイミングで登場した眼科用画像鮮明化アルゴリズムがAI画像読影に与える有用性をテーマとしました。

はじめに、画像鮮明化アルゴリズムの開発元であるロジック・アンド・デザイン社の井上氏にその原理を解説していただき、次いで東北大学の二宮先生には、緑内障の眼科用AI画像検査の可能性と、そのAI画像検査に画像鮮明化ソフトウェア Soft-MIErを用いる有用性について講演いただきます。

「みえる」ことの大切さを改めて実感できるセミナーとなればと思います。是非ご参加ください。

お知らせ

第34回日本緑内障学会への参加には、参加登録が必要です。7月31日(月)まで、早期割引を実施しております。

